

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2018.9 vol.149

管理者研修

7月20日と21日の2日間「ホテルウェルビューかごしま」において管理者研修が開催されました。

今回の研修の目的は「管理者として病院経営のリーダーシップを発揮し、病院経営の改善を目指す」について、研修テーマは、「機能移転後の病院経営について」でした。

1日目は一般社団法人日本血液製剤機構谷澤正明氏による「診療報酬改定から見る医療制度改革の方向性 ～鹿児島医療センターはいかに対応するか～」という演題で講演がありました。講演では、平成30年度の診療報酬改定から見えてくる医療政策の方向性と当院が地域医療に果たす役割および進んでいく方向性について説明がありました。また、次回の診療報酬改定を見据えた中期的長期的戦略、これからこういった施設基準を着目すべきかについて具体的に説明がありました。講演の内容は具体的な事例を挙げての説明であったので理解しやすく、これからの医療政策に対する当院のあり方について勉強する機会となりました。

2日目は、医師、コメディカル、看護、事務、看護学校を含めた10名程度で9グループに分かれグループワークが行われました。約1時間30分と短い時間の中で各グループはテーマ毎に、活発な意見交換を行いました。各参加者は自分と違う職種職場の意見に注意深く耳を傾けていました。

次に、グループワークの後にまとめた内容についての発表が行われました。発表は、前日の谷澤正明氏の講演の内容および他職種の意見が反映されたものとなり、質疑においても活発な意見が飛び交いました。

この研修で出た意見と職員の団結力を病院の経営に活かし、更なる医療の質の向上に取り組んで参りたいと考えます。

(文責：企画課長 伊藤 淳司)



平成30年度 がん看護エキスパートナース研修を開催して

がん看護エキスパートナース研修に参加して

7月23日～7月25日の5日間がん看護エキスパートナース研修に参加しました。

研修では、がん疾患の専門的知識、がん患者・家族への看護やがん患者の地域での生活を見据えた支援を多職種で協働してサポートするチーム医療についてなど、たくさんのことを学ぶことができました。

自己の課題であったがん患者に対する効果的なコミュニケーションスキルの獲得に関しては、講義や研修生同士のロールプレイを通じて、NURSEのコミュニケーションスキルを活用した患者の思いを引き出す技術を体験し、患者の感情表出を促進し対応することの大切さを学ぶことができました。

他施設の研修生の考えや意見などを知ることで学びも多く、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回の学びから患者の思いを尊重し、その思いを反映できるよう日々のがん看護実践に活かしていきたいと思えます。

(文責：東3階病棟 村山 優貴)



がん看護エキスパートナース研修を終えて

がん看護の専門病棟で勤務しがん患者と関わる中で、コミュニケーションスキルを磨きたいと思い、がん看護エキスパートナース研修に参加しました。NURSEという技法を用い、実際にディスカッションをしながら、自分のコミュニケーションの傾向を理解することができました。また、他施設の看護師の方たちと交流を深めるうちに、実践された患者・家族の希望に合わせた看護ケアについて、話を聴くことができとても刺激になりました。今回の学びを日々のがん看護に活かし、チームの中でリーダーシップを図りながら、患者・家族の希望に沿った看護を提供していきたいと思えます。

(文責：西3階病棟 築淵 恵理)

がん看護エキスパートナース研修を終えて

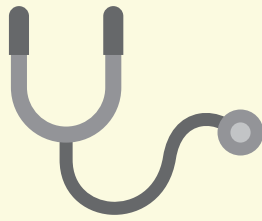
病棟でがん看護経験5年が過ぎ、さらになん看護について深めようと思研修に参加しました。腫瘍学の講義に始まり、がんリハビリテーションや歯科診療の重要性など最新のがん医療について学習することができました。また、患者の全人的苦痛を考えた看護、患者に必要な社会資源についてなど、院外から受講された研修生とカンファレンスを通して意見交換し、様々な視点から考えることができました。印象に残った講義は、意思決定支援についての講義で、患者が治療や病名を受け入れるまでに様々な不安や怒り、悲しみを繰り返していることを改めて学ぶことができました。今後は日々患者と関わる中でどのような心理状態であるのかを考え支援していきたいと思えます。

(文責：西4階病棟 肝付 千明)



ふれあい看護体験

2018



8月2日に高校生を対象とした「ふれあい看護体験」を行いました。今年度の参加者は15名であり、看護系の進路を希望している学生と進路に迷っている学生が参加されていました。そのため、今回の体験が将来の進路決定の一助になればという思いを込め、看護体験や施設内見学等を実施しました。

参加者には、まず、白衣へ着替えてもらい、髪も綺麗に束ねて頂きました。その姿は、さながら本物の看護師のようで、ピンっと伸びた背筋からは緊張感の中にも看護師になった様な喜ばしい気持ちを感じ取れました。実際の体験内容としては、病棟で患者とコミュニケーションを図ったり、足浴等のケアを一緒に実施して頂きました。この体験から、患者と直接関わる事から生まれる喜びや看護の魅力を感じる事が出来ていました。また、看護師の看護観に基づいた患者との関わりや様々な業務の見学・説明により、看護職に対する理解が深まり、看護師を目指すという将来の目標に向けた強い思いが伺えました。開会式では緊張がみられた参加者も、病棟での体験や看護師による看護の語りを通して看護の実際に触れたことで、交流会では自分の言葉で体験を話し、看護に対する思いを表現できていました。

今回の看護体験では、実際に看護体験を行うと共に、薬剤部や検査科、放射線科等の見学も行いました。看護の仕事だけでなく、病院という組織の中における各部署の役割や多職種連携についても学ぶことができおり、チーム医療における看護師の役割も伝えることが出来たのではないかと思います。

今回のテーマである「看護の心をみんなの心に」を基に、「いのちの大切さ、思いやり、支え合い」を伝え、「看護」への理解を深めるといった目的が達成できた看護体験であったと思います。

(文責：東7階病棟 看護師長 久徳 博子)



患者サロン 夏祭り

8月11日（土）に西3階病棟食堂にて、患者サロンの夏祭りを開催しました。射的や輪投げ、ヨーヨー釣りの出店が開かれ、たくさんの患者さまやご家族が参加してくださいました。小さなお子さんたちも一緒に真剣な表情でヨーヨー釣りや射的を行い、うまくできたときは満面の笑顔に一つまれていました。

出店を楽しんだあとは、待ちに待ったかき氷です!! 様々なところで話が弾んでいたため食堂内も熱気にあふれ、冷たいかき氷やフルーツをおいしそうに食べられていました。中には、「いつもは食欲がないけど、かき氷はおいしく食べられた」と嬉しそうに話されていた患者さまもいらっしゃいました。

当院の患者サロンは毎月第二土曜日の13:30から西3階病棟食堂にて行っています。普段は四つ葉のクローバーさんの素敵なコンサートを楽しんだ後、お茶を飲みながら患者さまやご家族と話をする場となっています。素敵な音楽とおしゃべりを楽しみに、いらっしゃいませんか?

(文責: 心理療法士 杉本 京子)



新任紹介

脳血管内科

穂原 貴裕



8月より脳血管内科で勤務させていただくこととなりました、穂原貴裕と申します。2016年に鹿児島大学神経内科に入局し、当院以前は大学病院・鹿児島市医師会病院で勤務してお

りました。

鹿児島医療センターでの勤務は研修医時代を含めても初めてのため、慣れないことも多くみなさんに迷惑をおかけすることもあると思いますが、一日でも早く慣れていけるように努めていきます。

診療の面でも至らぬ点があると思いますが、多くのことを学んで、少しでも職員みなさんの力になれるよう、患者さんに還元していけるように励みます。

今後ともよろしくお願い致します。

耳鼻咽喉科

伊東 小都子



初めまして。8月より耳鼻咽喉科で勤務しております、伊東小都子です。鹿児島大学医学部卒業後に鹿児島市立病院で初期研修をし、その後2017年4月に耳鼻咽喉科入局しました。鹿児島大学病院、鹿児島市立病院で勤務し、今回医療センターに移動となりました。県内で一番症例の多いこの耳鼻咽喉科で働けることを、とても楽しみにしていました。まだ未熟で皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、早くお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・丹後田・田上・吉永・迫田・中田・椎原・吉留・櫻木・田辺・山之内・前田

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

